

2025年1月上旬刊行予定

# アフター・リアリズム 全体主義・転向・反革命

中島一夫 著

四六判・上製 / 528頁 / 定価 4,300円 + 税  
ISBN978-4-908568-47-3 C0095 ¥4300E

「文学とは、つねに転向者のものである」

中村光夫、平野謙、江藤淳、蓮實重彦、三島由紀夫、転向と文学の問題に直面したもののたちのリアリズムへの懐疑を通じ、文学にふたたび「転向」という主題を導入する！ 転向論のほか、ラーゲリ、保守革命をめぐる諸論考、論争的時評・書評を集成した批評の軌跡。

中島一夫 (なかじま・かずお)

1968年生まれ。文芸評論家。2000年に「媒介と責任-石原吉郎のコミュニズム」で新潮新入文学賞受賞。2014年の一年間『週刊読書人』にて論壇時評を執筆。著書に『収容所文学論』(論創社)。

私は「私」という言葉に「帰属」しない「残滓」にしかいない。それは「失われた=残滓」としての「ラザロ」だ。「探求としての文学の言語」は、言葉によって死んだ「ラザロ」を蘇らせ再現するのではなく、いかに墓の「ラザロ」、失われた「ラザロ」を求めるか、なのだ。いくら転倒して見えようとも、この逆説にしか文学の真実はない。究極、文学は、ラザロを蘇らせる者と、失われたラザロを求める者とのたたかいである。本当の文学論争はそこにしかない。

(「はじめに アフター・リアリズム、あるいは失われたラザロについて」より)



装幀 = 稲川方人

## 内容構成

- はじめに アフター・リアリズム、あるいは失われたラザロについて
- I 文学・転向・リアリズム
  - 第一章 復讐の文学 プロレタリア文学者、中村光夫
  - 第二章 なし崩しの果て プチブルインテリゲンチヤ、平野謙
  - 第三章 江藤淳の共和制プラス・ワン
  - 第四章 批評家とは誰か 蓮實重彦と中村光夫
  - 第五章 PC全盛時代の三島由紀夫 その反文学、反革命
- II ラーゲリ・ユートピア・保守革命
  - 第一章 前線としてのラーゲリ スパイにされた男、内村剛介
  - 第二章 鮎川信夫のユートピア ソルジェニーツィン・内村剛介・石原吉郎
  - 第三章 反原発と毛沢東主義
  - 第四章 自然災害の狡知 「災害ユートピア」をめぐって
  - 第五章 木登りする安吾 「文学のふるさと」再考
  - 第六章 江藤淳と新右翼
  - 第七章 疎外された天皇 三島由紀夫と新右翼
  - 第八章 文学の毒 平野謙と瀬戸内晴美
- III 時評
- IV 書評
- おわりに

▶ご注文はツバメ出版流通まで **FAX 03-3721-1922**

TEL 03-6715-6121 E-mail info@tsubamebook.com http://tsubamebook.com

貴店名 (番線印)	<b>書肆子午線 新刊</b>		info@shoshi-shigosen.co.jp 返品条件注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通：川人
	ご注文数	アフター・リアリズム 全体主義・転向・反革命	
ご担当	様	冊	ISBN978-4-908568-47-3 C0095 四六判・上製 / 528頁 / 定価 = 本体 4,300円 + 税